

5. 県政に関する意見（問30、報告書p.137～145）

【結果概要】

①担当課

知事公室 広報課

②調査目的

選択式質問においては、あらかじめ想定された選択肢に沿った回答が求められるため、県民意見の全体像を把握するのは困難である。このようなことから、広く県政に関する意見を聴取するために、自由記述による質問を実施し、テキストマイニング（自然言語処理）により、全体意見の要約と可視化、回答者属性による傾向の把握などを行う。

③調査結果の分析・考察

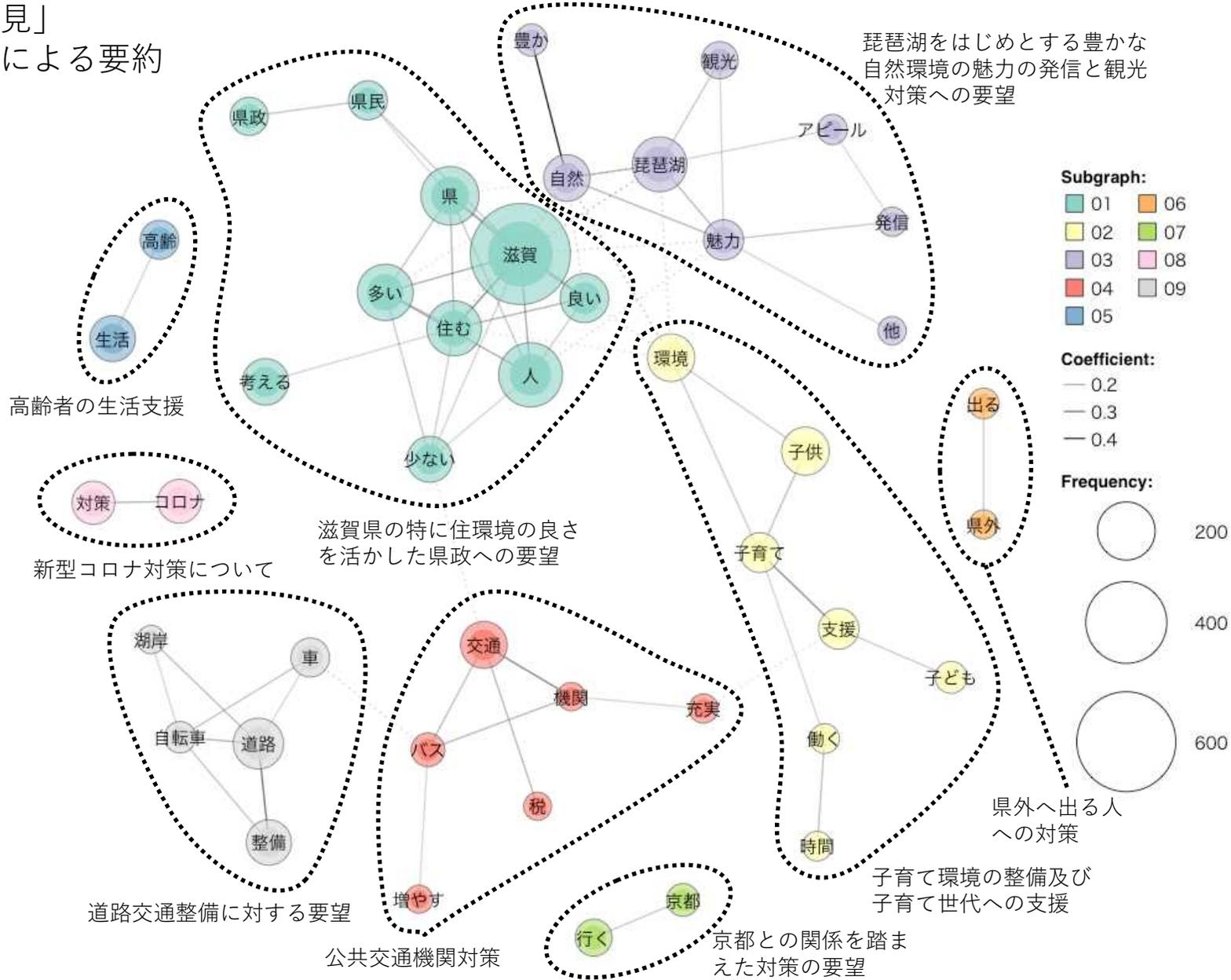
- 県政に関する意見として得られた自由記述回答は、テキストマイニングにより集計および可視化分析を行う。テキストマイニングは、文章をまずキーワードに分割し（形態素解析）、分割したキーワードの出現頻度およびキーワード間の関係性を集計し、各種統計手法および機械学習手法により可視化、分析することを基本とする。本調査では、回答者全体の話題の要約および可視化のために共起ネットワークグラフを用い、性別や年代、居住地などの回答者属性別の傾向の分析に対応分析を用いる。
- 共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現（共起）するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード（点）と関連性（線）から成るネットワークグラフとして可視化したものである。共起ネットワークグラフは、数的手法により内部の密接につながる密度の高いキーワード構造を特定することが可能であり、これら内部のサブ構造は特定の話題を要約したものに対応すると考えることができる。また、共起ネットワークグラフで特定可能な話題は、出現頻度が上位のキーワードから構成されている主要な話題が中心であり、比較的出現頻度が低いキーワードから構成されている話題は特定が困難な点については注意が必要である。
- 対応分析は、回答者属性別（性別、年代、職業など）に、出現キーワードの特徴を2次元空間に表示したものであり、属性とキーワードが近い位置にプロットされるものは、その属性に特徴的に出現するキーワードであると考えられる。また、対応分析では、基本的には横軸（第1軸）と縦軸（第2軸）の2次元空間上に関係性をプロットするが、全体の位置関係の特徴（慣性）がどの程度説明されているかは、成分（%）によって表されている。この成分（%）が低いと、得られた2次元空間上のグラフでは、特徴が説明しきれていない可能性が高く、表示されている位置関係が偶発的に生じている可能性が高い点については注意が必要である。
- 共起ネットワークグラフによる可視化の結果、全体で9つの話題を特定することができた。特定された話題のサブ構造を構成するキーワードより、「住環境の良さを活かした対策への要望」および「豊かな自然環境の魅力発信と観光対策」、「県外への転出者対策」、「子育て環境および子育て世代への支援」、「京都との関係性を踏まえた対策」、「バスなど公共共通機関対策」、「道路交通に対する要望」、「新型コロナ対策への要望」、「高齢者への生活支援」についてが、比較的県民が高い関心を持つ県政話題であると考えられる。また、キーワードの出現頻度を表す円の大きさと、サブ構造を構成しているキーワード間の関係構造より、大きな話題を構成していたのは「豊かな自然環境の魅力発信と観光対策」と「住環境の良さを活かした対策」であり、滋賀県の琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境とこれらに基づく住環境の良さを活かす政策に関して、回答者全体として比較的大きな話題を構成していると考えられる。

- 対応分析の結果、問1の性別では、女性は子育てや高齢者の生活支援などの福祉、医療、住環境などの暮らしに関連した話題、男性は公共交通や施設整備、県政の情報発信などの政策的な話題が中心で、ジェンダーバランスの偏りが見られる。
- 問2の年代では、第1軸上で20歳以上から49歳以下までのグループと50歳以上グループに分けられる。18-19歳グループは、サンプル数が少ないために、偶発的な可能性があるが、50-64歳グループに隣接している。第1軸右側の49歳以下のグループは、子育て支援や働く場所、京都など他府県との関係などについての話題が中心で、左側の50歳以上のグループは、高齢者福祉や琵琶湖などの自然環境保全、県の情報発信に関する話題が特徴であり、ライフステージの違いによる問題関心の傾向が表れていると考えられる。
- 問3の地域別は、第1軸右側の端に湖北地域と湖西地域が位置し、地域の高齢化や人口減少、生活支援、情報発信などに関する話題が特徴であった。第2軸左側には、湖南地域と大津地域が位置し、仕事や子育て環境、道路交通、自然環境の他府県へのアピールなどの話題が特徴であった。その他の地域では、湖東地域が商業施設の充実、東近江地域は住民や地域活動、甲賀地域が働き場所についての話題が特徴的であり、それぞれの地域特性に関連した話題であると考えられる。
- 問4の職業別は、「常勤職」と「家事専業」が隣接しており、交通事情や経済状況、コロナ対策、子育て支援、京都との関係性などの話題が特徴的で、世帯構成を表したものと考えられる。「農林漁業」は、琵琶湖の水質改善や豊かな自然環境の保全についての話題が特徴的で、職業により社会的課題が異なることが表れていると考えられる。
- 問5の居住履歴は、県外に転出後に再度転入グループは、子育て環境の充実や通学、医療などについて、県外転入グループは、大阪や京都との比較や関係性、道路渋滞やバスなどの公共交通に関する課題について、移動の無いグループは観光対策や他府県への情報発信、若者などの働き場所の支援などの話題が特徴的である。居住パターンの違いによる他地域との生活経験の比較により、関心が異なると考えられる。
- 問6の今後の滋賀への居留意向では、第1軸右側に思わないどちらとも言えないグループが位置し、左側に思うグループが位置している。住み続けたいと思うと回答したグループは、琵琶湖をはじめとする自然環境の豊かさなどの情報の県外への発信、観光対策、インフラ整備の課題、通学支援などに関する話題が特徴であった。住み続けたいと思わない、どちらとも言えないと回答したグループは、慢性的な道路渋滞や公共交通機関、高齢化問題などの種に課題についての話題が特徴的であった。
- 問7の滋賀に誇りを持っているかでは、持っていると回答したグループは、琵琶湖などの豊かな自然環境、災害の少なさなどに関する話題が特徴であった。持っていないと回答したグループは、京都や大阪、湖南と湖北地域などとの比較での経済発展の差、あまり持っていないグループは、働き場所や公共交通機関や病院などの医療事情に関する不満や課題に関する話題が特徴であった。
- 問8の県政に関心をもっているかでは、関心があると回答したグループは、経済状況の改善や公共交通課題、自然環境保全に関する話題が特徴的であった。まあまあ関心があるグループは、子育てや生活支援、バスなどの公共交通や商業施設整備に関する話題が特徴であった。あまり関心がないグループは、働き場所や京都などとの比較での不便さや経済発展の差に関して、関心がないグループは税金などに関する話題が特徴的であった。

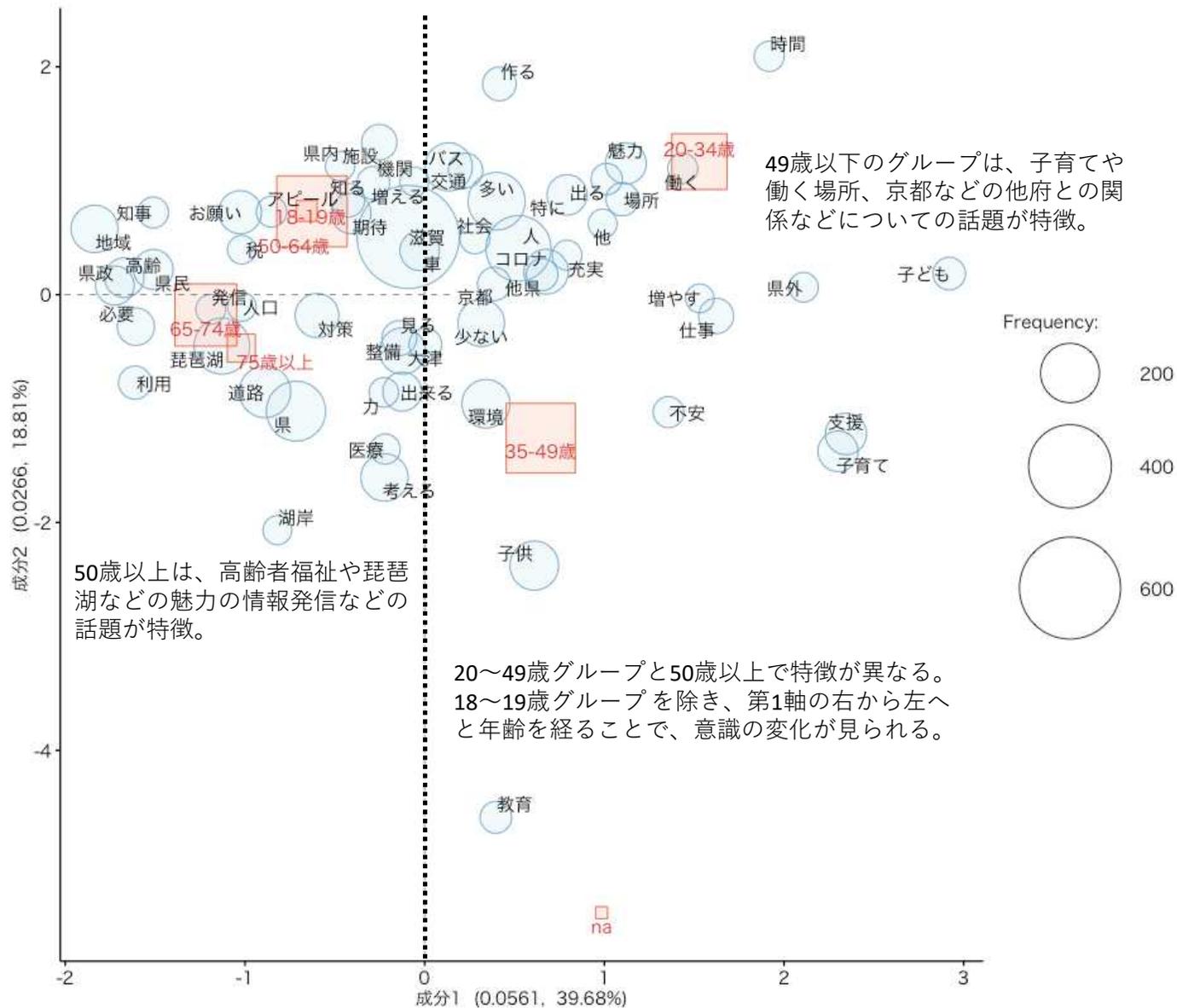
④ 今後の施策への反映

可視化分析の結果を関係所属と共有し、今後の政策形成に参照・活用する。

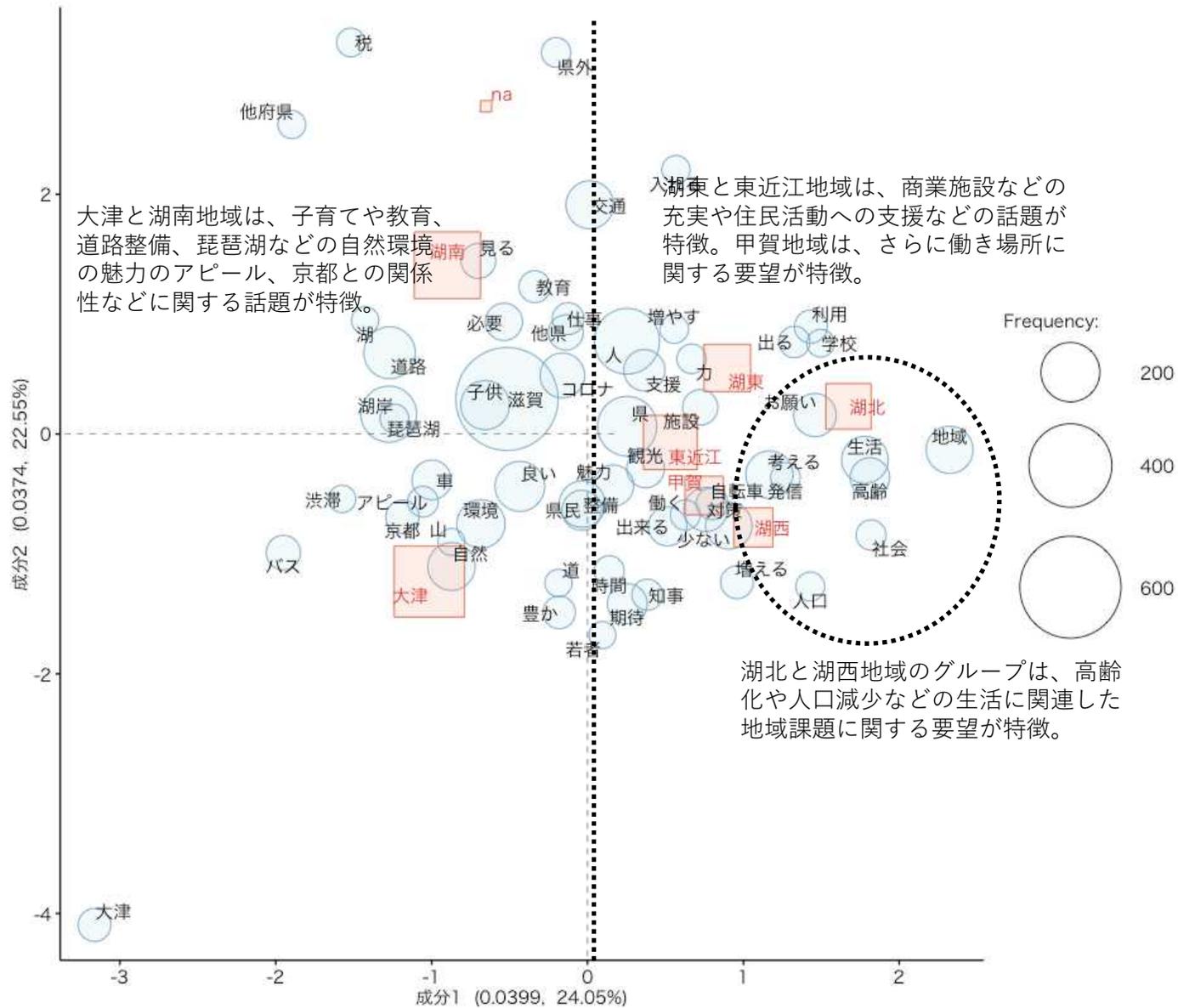
問30「県政についての意見」
共起ネットワークグラフによる要約



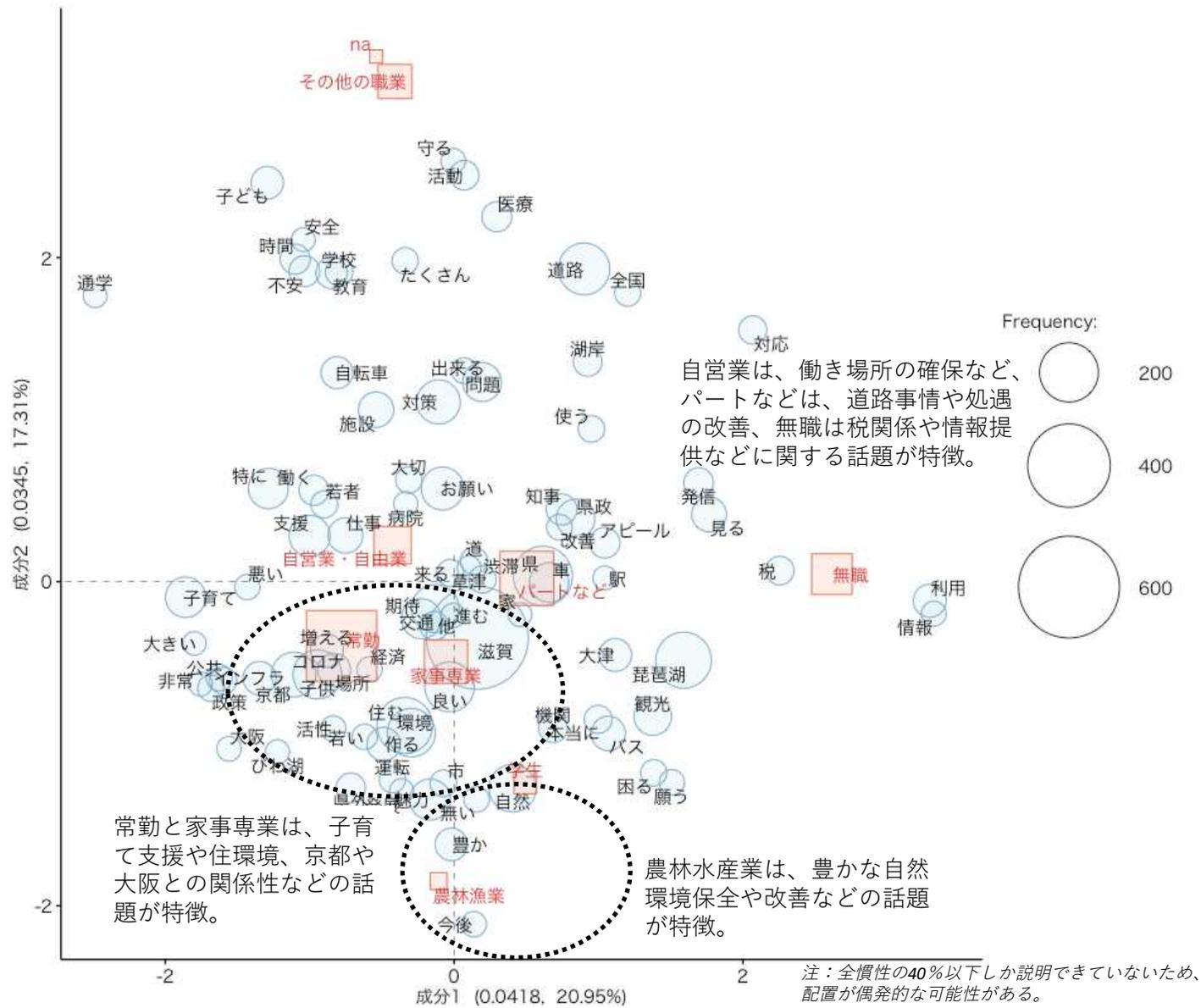
問2「年齢」と問30「県政についての意見」共起ネットワークグラフによる要約



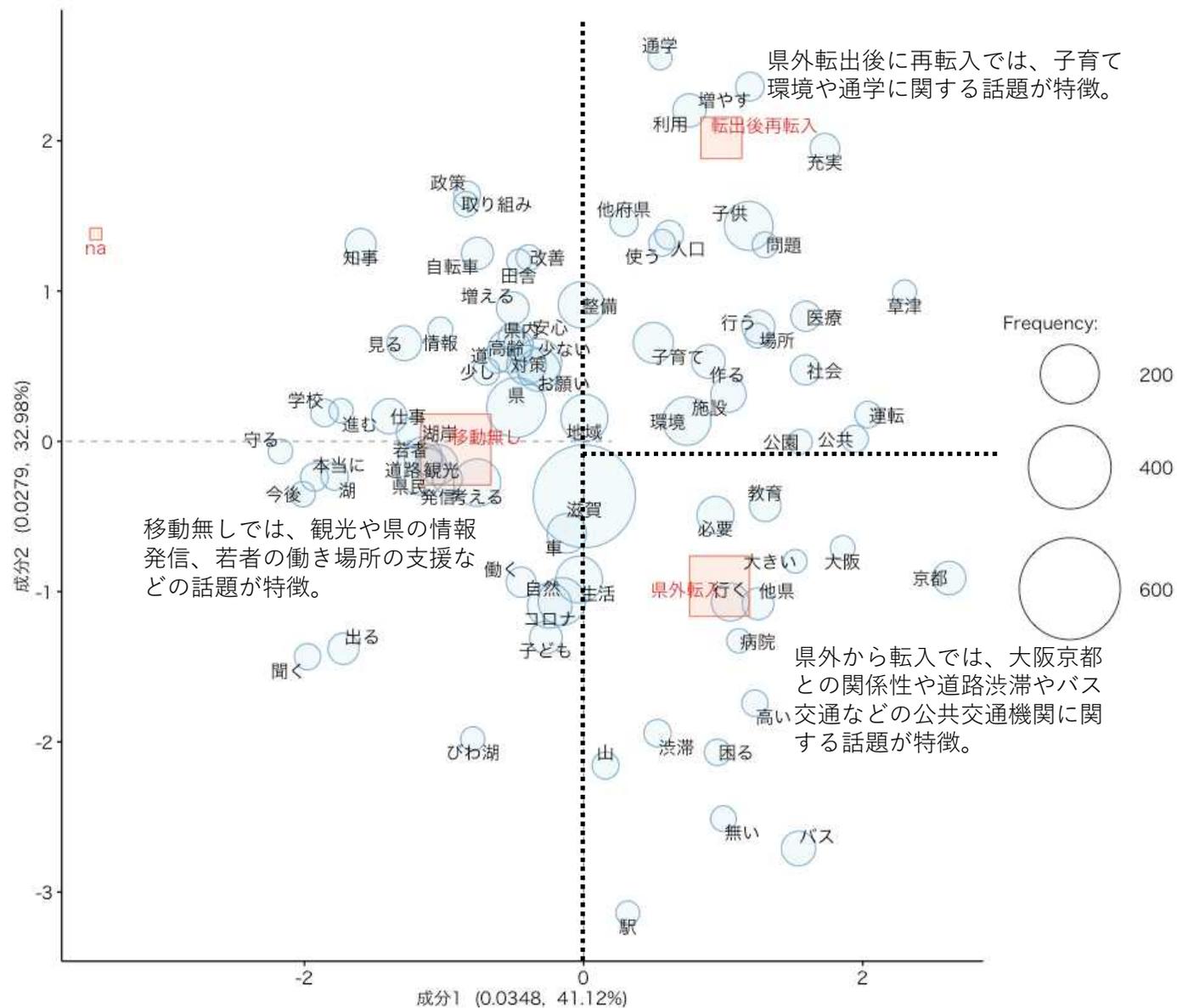
問3「地域」と問30「県政についての意見」共起ネットワークグラフによる要約



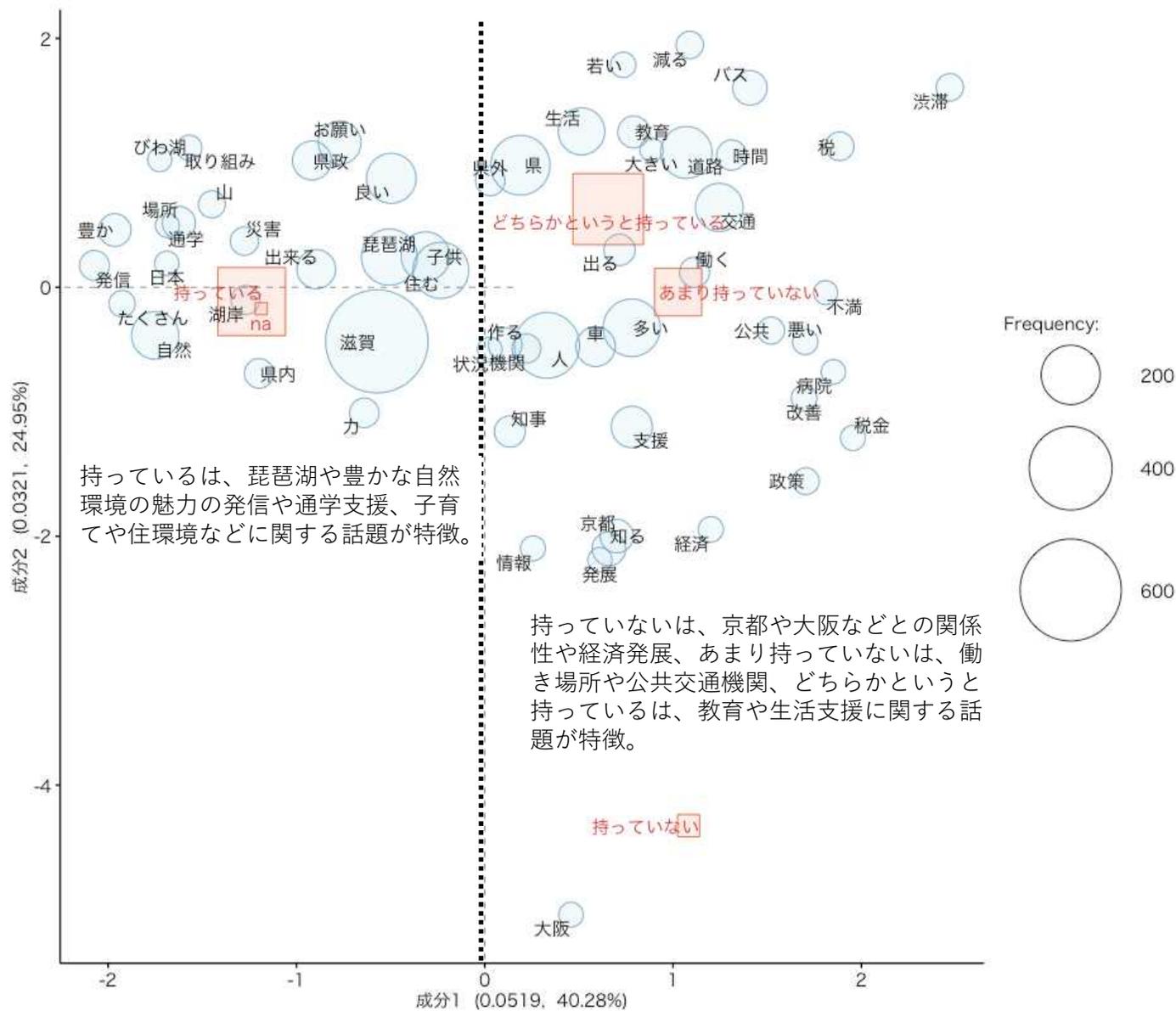
問4「職業」と問30「県政についての意見」共起ネットワークグラフによる要約



問5「居住履歴」と問30「県政についての意見」 共起ネットワークグラフによる要約



問7「誇りを持っているか」と問30「県政についての意見」共起ネットワークグラフによる要約



問8「県政への関心」と問30「県政についての意見」 共起ネットワークグラフによる要約

